同志社大学新島塾

2027 年度（第 8 期）塾生

募集要項

同志社大学
Doshisha University

新島塾のいしずえ――新島襄の言葉

真理は寒梅のごとし。あえて風雪を侵して開く。

（深井英五宛て揮毫、1889 年頃、『新島襄全集』5、563 頁）

智識、財産、自由、良心の働きを養生する事。この内一(いつ)も欠くべからざる事、恰(あたか)も卓の四脚あるが如(ごと)し。

（演説草稿「文明を組成するの四大元素」、1882 年、『新島襄教育宗教論集』283 頁）

一国を維持するは、決して二、三、英雄の力にあらず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠(よ)らざるべからず。これらの人民は一国の良心とも謂(い)うべき人々なり。而(しか)して吾人は即ち、この一国の良心とも謂うべき人々を養成せんと欲す。

（「同志社大学設立の旨意」、1888 年、『新島襄教育宗教論集』32 頁）

諸君よ、人一人は大切なり。一人は大切なり。

（「同志社創立十周年記念講演」、1885 年、『新島襄教育宗教論集』112 頁）

同志社においては、倜儻不羈(てきとうふき)なる書生を圧束(あっそく)せず、努めてその本性に従い、これを順導し、もって天下の人物を養成すべき事。

（「遺言（大磯）」、1890 年、『新島襄自伝』401 頁）

一、教育の目的は、智徳併行にして人物養成の一点に止(とど)まれり。人才養成にあらず、人物養成の意なり。

（「徳富猪一郎宛」手紙、1888 年、『新島襄の手紙』247 頁）

我が校をして深山大沢(だいたく)のごとくになし、小魚も生長せしめ、大魚も自在に発育せしめ、

（「横田安止宛」手紙、1889 年、『新島襄の手紙』316 頁）

なぜに大学を要するかと申せば、大学は智識の養成場なり、宇宙原理の講究所なり、学問の仕上げ場なりと答えまする。

（「私立大学設立の旨意、京都府民に告ぐ」、1888 年、『新島襄教育宗教論集』54 頁）

Ⅰ. Message

同志社大学は、文系と理系の垣根を越え、総合知を備えた次の時代を担う人物を養成するための新しい教育プログラム「同志社大学新島塾」（以下「新島塾」）を 2019 年度に開設しました。新島塾では、学生の皆さんの意欲と能力を在学中に可能な限り伸ばし、社会の様々な分野で活躍する人物を輩出することを目的としています。そして、人と人とを結びつけ、新しい社会を切り拓いていくコミュニケーション能力を備えた人物の養成を目指しています。

言うまでもなく、新島塾はその名称を同志社の設立者・新島襄からとっています。近代日本を代表する偉人や知識人を何人も挙げることはできますが、新島ほど冒険的な生涯を送った人はいません。新島はその情熱によって多くの人に影響を与え、また、多くの人に助けられる中で冒険的な「物語」を生き抜き、若い人たちをその「物語」の中に招き入れてきました。時代の常識に安住することなく冒険的な「物語」に参与し、それぞれの時代にふさわしい形でその「物語」に新たな活力を吹き込むのは、同志社に託された固有のミッションです。新島塾で学ばれる一人ひとりが新たな「物語」の担い手となっていくことを期待しています。

従来、科学技術の進展により解決すると考えられていた社会課題が、単に新しいテクノロジーとイノベーションを創出するだけでは解決できないことがわかってきました。現在、私たちが直面している問題の多くは、歴史的に積み上げられてきた複合的な原因を有しており、その解決の道筋も単一のものではあり得ません。言い換えれば、ある特定の学問分野の知見だけで解決できる社会問題は、ほとんどないと言えるでしょう。それゆえ、専門知を備えながらも、領域を超えた俯瞰的な視点を持つことがきわめて重要です。これは新島塾で養っていただきたい力の一つです。

気候変動や経済格差の拡大、差別や紛争の問題など私たちが直面している課題を解決しなければ、次の 50 年において、日本のみならず世界はより深刻な状況に陥る可能性があります。科学技術や学問的知見を適切に用いてよりよい社会を創るため、今ほど良心を持った人物が必要とされている時代はありません。未来を担う皆さんには、時代の変化に柔軟に対応する能力が必要とされる一方で、変化に左右されない揺るぎない良心と困難な課題に挑戦する行動力が、これまでにも増して求められています。

世界の課題に向き合い、知の冒険に出かけたいと願う皆さん、新島塾にお越し下さい！

同志社大学新島塾 塾長
（同志社大学 学長）
小原 克博

Ⅱ．新島塾とは

新島塾は、同志社大学創立者・新島襄の精神を継承し、良心を基盤として未来社会に向き合う人物を育成する教育プログラムです。「良心に基づいた総合知」の展開と「智徳並行」教育のもと、分野横断的な学びと対話・協働を通じて、社会課題を多角的に考察し、主体的に行動できる力を養います。

1．人物養成の指針（プログラム実施のねらい）

(1) 学生時代の早い段階で、多様な他者との対話を通じて多角的に思考し、「解」が 1 つではない課題に向き合い、本質を見極める力を養う。
(2) 組織やチームが最善の方向に進むため、所属学部の専門領域を超えた幅広い知識に触れ、基礎学力を身に付けることで、解を見出す力を養う。
(3) 他者との協働の中で自らの役割を的確に判断し、主体的に合意形成を担う力を養う。
(4) 自身の潜在力を顕在化させるため、失敗や経験から学び続ける姿勢と強い「志」を持ち、生涯にわたり成長し続ける資質を養う。
(5) 新島塾修了後は、大学の様々な活動の中で、他の学生と学びの価値や「志」を共有する。

2．入塾から修了まで

募集対象	2027 年 4 月 1 日時点で本学学部 2 年次または 3 年次に在学中の者
活動開始	2027 年 3 月(進級直前)
募集人数	15 名程度を募集します。
期間	標準活動期間は 2 年とします。（P.4 参照） 在学留学等で不参加のプログラムは、翌年度に限り受講可能です。
姿勢	主体的に学び、挑戦する意欲を重視するため、積極的な取り組みや継続的に学びに向き合う姿勢、他者を尊重し敬意を払う姿勢が求められます。また、随時、活動計画や活動状況の報告が求められます。 就職活動等を理由に活動が疎かになることは認められません。プログラムへの参加状況によっては、退塾となることがあります。
費用	入塾料は不要です。課題図書の購入費、合宿（宿泊費・食事代）やフィールドワーク（旅費・宿泊費）は原則として大学が負担しますが、塾生の一部負担が生じる場合もあります。また、次のような個別に生じる経費は塾生負担となります。 ・同志社びわこリトリートセンター、フィールドワーク発着地までの交通費 ・学外活動で個人的に行う飲食、施設利用料等の諸費用
修了要件	次の要件をすべて満たすこと。 ・全プログラムの受講完了（受講回数など完了要件あり） ・成果報告会の企画・運営 ・活動状況報告書の提出（随時）

修了	修了生には、塾長から「同志社大学新島塾修了証」を授与します。 修了後は、後輩塾生の活動（合宿や成果報告会等）を支援するチューターを務めるとともに、大学卒業後も人的ネットワークを構築し、現役学生の学びを支える役割が期待されます。

● 活動の全体図（流れ）

1年目				2年目					卒業まで
プログラム実施期間（1.5 年）							まとめ・振り返り		
3月	春学期	夏期休暇	秋学期	3月	春学期	夏期休暇	秋学期	3月	
志の実践1（生成編） 入塾式・ガイダンス	知の探究1	合宿	知の探究（塾生企画） 知の探究2	志の実践2（変容編） 入塾式・修了式・ガイダンス（※1）	知の探究3	合宿	活動状況報告書（まとめ）提出（※3） 成果報告会（※2）	修了式	チューター活動

（※1）自身の入塾・修了ではありませんが、塾生として参加します。ガイダンスは参加必須です。

（※2）活動の総仕上げとなる成果報告会は、塾生が主体となって企画・準備・運営を担い、学びを実践に結びつける経験を重ねます。

（※3）これまでの新島塾の活動を振り返り、自己変容を確認します。

Ⅲ．プログラム

知識や技法の習得にとどまらず、人間相互の信頼関係を構築する同志社大学の教育的伝統に基づき、「友人や先生と語り、仲間と協働する価値を学ぶ」ことをコンセプトとして掲げています。所属学部や専攻分野を超えた文理横断的な学びを通して理解を深める姿勢を養うとともに、多様な価値観を持つ他者と学ぶための共通の土台を形成します。

プログラムでは、講義形式の学習に加え、フィールドワークなどの学外活動や、ディスカッション等の能動的な学習を組み合わせます。これにより、塾生は自ら課題を設定し、異なる背景を持つ仲間と協働しながら、主体的に課題解決に取り組む経験を積み重ねます。

「知の探究」においては、文理の枠を越えた多様なテーマに取り組み、主観や先入観にとらわれずに考察・探究する力を養います。さらに、「合宿」では、学知の基礎を身につけるとともに、自ら継続的に学び続けるための方法を習得します。

※塾は課外活動であり、参加者の時間割を考慮して活動日時を設定するため、プログラムは必然的に土曜、日曜、祝祭日や平日の遅い時間帯またはゴールデンウィーク、夏期休暇期間などにも行われます。

※いずれのプログラムの受講後も活動状況報告書の提出が必要です。

● ガイダンス

概　　要	多様な背景を持つ塾生が共に学ぶため、一定の共通理解や思考の土台を築く機会を設けます。それぞれの価値観や考え方に触れながら、学びと対話の基本的なスタンスを共有します。
担 当 者	小原克博 塾長
実施日時	2027 年 3 月 11 日（木）入塾式後(約30分間)
完了要件	新島塾での学びの基盤となる重要な機会であるため、毎年 1 回、合計 2 回の出席が必須です。

● 志の実践1（生成編）、2（変容編）

概　　要	新島塾への共通理解を踏まえ、各自が抱く「志」を具体的な行動計画へと落とし込み、対話により他者と共有して社会への関わり方を探ります。 塾生全員が参加して相互に学び合います。 1 年目（生成編）：先輩や同期との対話を通じて自身の志を言語化します。 2 年目（変容編）：それまでの活動を振り返り、実践や内省を元に成長や気づきを深めます。
担 当 者	井上福子先生（ビジネス研究科）
実施日時	2027 年 3 月 11 日（木）13:00-17:00
完了要件	新島塾での学びの基盤となる重要な機会であるため、毎年 1 回、合計 2 回の出席が必須です。活動状況報告書の提出も必要です。

● 知の探究1・2・3

概　　要	1～3 のそれぞれが全 5 回のセッションとフィールドワークで構成されます。主な活動内容は次のとおりです。 - 読書を起点とし、ディスカッションやディベートなどの活動を通して、取り上げた問題を多角的に考察・探究します。 - 得られた知識を基に学外活動やフィールドワークを行い、現実社会が抱える課題を自らの目で捉え、解決策を構想・提示します。 - これらの過程を通して、幅広い教養と論理的思考力を養うとともに、社会的視野の拡大と学びへの意欲の醸成を図ります。
担 当 者	知の探究 1 （大山和哉先生・文学部国文学科） 知の探究 2 （多久和英樹先生・理工学部機械システム工学科） 知の探究 3 （2 年目に受講するため 2028 年度開始）
実施日時	各担当者が設定します。
完了要件	セッションは 3 回以上の出席、フィールドワークは全行程の参加が必須です。活動状況報告書の提出も必要です。

● 知の探究（塾生企画）

概　　要	定められたグループごとに、関心のあるテーマを主体的に検討・選定し、当該分野を専門とする本学専任教員に講師を依頼してプログラムを企画・実施します。グループは合宿までに発表されます。 テーマの検討・選定から講師との調整、セッションの構成、運営、成果の発信に至るまでを一貫して担います。自ら学びを構想し、形にする経験を通じて、探究をさらに深化させます。 セッションの回数上限は 3 回、主な活動内容は次のとおりです。 - テーマに基づく事前学習および課題の設定 - 講師との調整を通じたセッション内容の設計・実施 - 学びの成果の整理および発表
担 当 者	各グループで検討した内容を事務局へ報告後、事務局からの連絡を待ってから、依頼や日程調整を開始します。
実施日時	（目安）合宿後～12 月
完了要件	全回出席が必須です。活動状況報告書の提出も必要です。

「知の探究」は塾生が主体的かつ能動的に学びを深められるよう設計されています。より充実した学びとするために、次の流れを意識して参加しましょう。

基盤形成		
学び方・対話を学ぶ	共同理解を形成する	多様な価値観への気づき
↓		
読む・考える・話す		
議論・表現する	知識を説明できる	異なる意見・価値観を理解する
↓		
社会実践		
体験する	知識を課題解決に応用する	試行錯誤
↓		
成果統合（進化・発展）		
成果を形にする	学びを発展させる	達成・統合

● 合宿

概　　要	日常のキャンパスを離れ、非日常の環境に身を置き、連続した学びと対話を通じて理解を深めるプログラムです。また、その場でしか実施できないようなプログラムを体験できることも合宿の醍醐味の一つです。 合宿では、ひとつの事象であっても、別の観点や視点から捉えると、全く別の見え方をすることを講義と演習から学びます。多様なテーマに関する講義を軸に、質疑応答や対話を重ねながら理解を深めることで、人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」の獲得を目指します。さらに、他の塾生や講師と議論し、意見を交わすことでより理解を深めます。
実施日時	8 月中の予定（2 泊 3 日）
完了要件	全日程の出席が必須です。活動状況報告書の提出も必要です。

（参考）2026 年度合宿

テーマ	地球環境問題と良心
講師	小原　克博：新島塾塾長、神学部教授、同志社大学長 堀場　厚：株式会社堀場製作所、代表取締役会長 寺井　隆幸：一般財団法人エネルギー総合工学研究所・理事長、 東京大学名誉教授 柴田　一成：京都大学名誉教授、 同志社大学　研究開発推進機構　客員教授 後藤　琢也：新島塾コーディネーター、理工学部教授、副学長 多久和　英樹：理工学部教授
課題図書	1.同志社大学　良心学研究センター編『良心から科学を考える　―パンデミック時代への視座』、岩波書店、2021 年 2.『SDGs　ネクスト「深山大沢」プロジェクト―ミツバチから宇宙まで』、2023 年 3.柴田　一成『太陽の脅威と人類の未来』角川新書、2024年

Ⅳ．募集および選考

新島塾では、それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、高い「志」を抱いて教養を深め、統合知を積極的に獲得しようとしている意欲に満ちた学生を募集します。

あわせて、多様な他者と学び合う場において、相手を尊重し、礼節をもって誠実に関わる姿勢を備えていることを重視します。

1．新島塾が求める学生像

知識・技能

幅広い教養と論理的・批判的思考力の育成に不可欠な広範な基礎学力を有し、専門分野の学びと新島塾の学びを両立できる学生

思考力・判断力・表現力

物事を根拠に基づき論理的に思考し、的確な判断のもと自らの言葉によって他者に正確に伝えることのできるコミュニケーション能力を有する学生

主体性・多様性・協働性

様々な学問分野への興味関心と新しい課題に積極的に取り組む強い熱意があり、多様な背景を持つ他者と協働して学ぶ姿勢を有する学生

向上心・貢献意識・挑戦力

生涯にわたり学び続ける向上心と社会に貢献する志を有し、新島塾の活動に主体的に取り組み、仲間と切磋琢磨しながら修了までやり遂げる強い意思を有する学生

これらの学生を受け入れるために、多様な観点からの評価による選抜を行います。

2．入塾資格

2027 年 4 月 1 日時点で本学学部 2 年次または 3 年次に在学中の者

3．出願方法

出願期間内に Forms（志願票）に提出してください。期日に余裕を持って提出することを推奨します。不備がある場合は、出願を受け付けません。

https://forms.cloud.microsoft/r/sqLzZMGGEb?origin=lprLink

なお、上記 Forms（志願票）には、以下 2 点のアップロードが必須です。

(1) 志望理由書（所定様式にて 1200 字以内で作成）

https://next.doshisha.ac.jp/files/ktken/page/neesima_apply.docx

(2) 顔写真の画像

4. 出願期間および選考

出願期間	2026年12月 1 日（火）～2027 年 1 月 7 日（木）17 時
審査番号通知	選考に関する諸連絡は大学が付与しているメールアカウント宛に新島塾事務局（ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp）から送ります。Gmail など他のメールアドレスには送信しません。 出願から 5 日間経過しても連絡がない場合には、新島塾事務局までご連絡ください。
1次審査（書類審査）	出願書類および出願時までに確定している成績によって審査します。
1次審査結果発表	2027 年 1 月 22 日（金） 結果をメールでお知らせします。 1 次審査を通過した方に 2 次審査の詳細をご案内します。
2次審査（面接審査）	2027 年 2 月 3 日（水） 1次審査を通過した方へは、面接審査に進んでいただきます。欠席の場合は不合格となります。
2次審査結果発表	2027 年 2 月 12 日（金） 2次審査の結果をメールでお知らせします。

5. 注意事項

新島塾は3月に入塾式と修了式を合同で行い、入塾式直後に活動を開始します。（P.4 参照）
いずれも参加必須のため、当日のスケジュールを必ず確認のうえ、出願してください。

入塾式（修了式）	2027 年 3 月 11 日（木）10 時	今出川校地同志社礼拝堂
ガイダンス	入塾式終了後	今出川校地同志社礼拝堂
志の実践 1（生成編）	2027 年 3 月 11 日（木） 13 時～17 時	今出川校地 （対象者にご案内します）

6. 新島塾に関する質問

説明会動画を以下のサイトにてご覧いただけます。また、「VI. よくある質問（FAQ）」（P.11）も併せてご参照ください。
新島塾に関する質問フォームを用意していますので、ご利用ください。なお、質問に対して個別に回答はいたしません。新島塾サイト「概要ページ」に掲載いたします。

説明会動画	質問フォーム	概要ページ

Ⅴ．その他

1.新島塾に関する連絡について

大学付与のメールアドレス宛に連絡します。Gmail など他のメールアドレスには送信しないため、大学付与のメールアドレスをチェックする習慣がない人は、必ず転送設定をしてください。また、受信確認のため、事務局からの連絡には必ず返信してください。

2.広報媒体への掲載について

新島塾の活動の様子は、動画や写真で撮影します。同志社大学公式ホームページや同志社大学の Web サイト、同志社大学公式 SNS、その他本学の刊行物等の各種媒体に掲載します。あらかじめご了承ください。なお、塾生個人が特定できる形での広報発信や、学外の Web サイトへの掲載は、事前に内容を説明し、本人の了解を得た場合にのみ行います。

3.塾生自身による情報発信について

新島塾では公式 Instagram を開設しています。塾生自身が新島塾の取組や活動について主体的に情報発信を行うことで、塾生の発信力強化と学内外での新島塾のプレゼンス向上を目的としています。積極的に活用してください。
Instagram： neesimajyuk_official

4.個人情報保護について

提出いただいた個人情報(学生 ID・氏名等)は、新島塾の運営に限って利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。なお、個人が特定されないよう統計処理した情報は、大学が調査資料として利用します。あらかじめご了承ください。なお、取得した個人情報は、同意を得ず第三者に提供しません。

Ⅵ．よくある質問（FAQ）

・新島塾で活動をしながら、留学することは可能ですか。
留学といってもサマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラム、交換留学など種類や期間はさまざまです。留学経験は、個人の成長に繋がるだけでなく他の塾生や新島塾全体にもプラスの効果が期待されますが、留学期間に応じて塾での活動期間は延びます。例えば、2 年次に入塾後に 1 年間の留学に行くと、4 年次まで新島塾の活動は続きます。就職活動と新島塾の活動期間が重なる点は避けられません。新島塾の活動には相応の時間と労力を要します。慎重に計画して出願してください。

・教職課程や図書館司書課程は、新島塾と両立できますか。
新島塾のプログラムが実施される時間帯に、教職課程などの免許資格課程や語学の授業が重なることがあります。介護等体験や教育実習と重なることもあるかもしれません。塾生たちは協力しあいながら活動していますが、プログラムの完了要件として出席回数も必要です。新島塾の活動と授業が重複する際は、事前にプログラム担当教員および新島塾事務局に相談してください。

・新島塾の出願にあたり、GPA などの成績基準はありますか。
出願資格として成績の基準は設けていませんが、選考にあたり参考とすることがあります。

問い合わせ先
同志社大学新島塾事務局 ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp